



「もの」と「こと」と「ひと」

Venture fourth にお便りが続々と届いています。

以前も書いた通り、この通信の場所が気軽に意見を交流できるプラットフォームのようになれることを目指しているのです、気軽にいつでもお便りいただけると嬉しいです。

はじめまして！そして、いつもお世話になります。最近、うへの娘と地域の文化について、話し合う機会がありました。日本人は伝統的な価値は認めているけど、環境が不十分であり、例えば、御神輿や獅子舞踊りなどの伝統行事がないので、地域に興味が湧かなくなるということなのかな。

そんなふうに話していました。

4年生の活動は、地域に愛着が湧くきっかけになりそうですね

娘がどうしたら、そのような文化が絶えず、今の時代、そのような文化が復興するのか疑問をもっていました。まずは、体験して良さを知るところからですね

はじめまして、お便りありがとうございます。

地域の文化のこと、私も同じように課題意識を持っていたので、そのように思っ下さっているお家の方がいることが分かってとても嬉しいです。

書いてくださったように、「4年生」を含めた、中学年（3・4年生）のまなびの一つのキーワードが「地域」です。

ちなみに、社会科（生活科）の学習には、ある“規則性”が存在します。

それは、学びの対象が少しずつ広がっていくということです。

例えば、子どもたちにとって最も身近な公共施設は「学校」です。

ですから、一年生の初めは学校探検から学習をスタートします。

どんな教室があるのか。

どんな勉強をするのか。

どんな決まりがあるのか。

1つずつ学びながら、公の施設の使い方やルールを学んでいきます。

二学期は、少し活動の範囲を広げて「公園」に行きます。

学校の次に、身近な公共施設です。

続く2年生では、「商店街」や「図書館」や「郵便局」などの見学に行きます。

「お店」や「本」や「手紙」といった、身近な“もの”から少しずつ学びの範囲を広げていく段階です。

そして、3・4年生では、主に「地域」の学習をします。

身近な学校や公園や図書館をまとめた、「自分の街」の勉強をするわけです。

探検をし、地図記号を学び、地図を作成する。

警察、消防署、ゴミ処理センター等の見学に行く。

地域の産業を知り、地域の偉人について学ぶ。

これも、少しずつ学習の対象が広がっていく組み立てになっています。

5年生では、学びの対象が日本全体に広がります。

日本の産業を主に学びながら、それぞれの地域において特色のある経済活動がなされていることを学びます。

そして、6年生では、学習対象が海外へと広がるだけでなく、時間を遡って学ぶ「歴史学習」が加わり、社会全体の仕組みについてまなぶ「公民学習」も加わります。

このように、社会科は、学びの対象が少しずつ広がっていく仕組みになっています。

ですから、3・4年生のキーワードである「地域学習」にからめて、地域の文化や歴史を感じる体験を経ることはとても大切だと考えています。

その時におすすめるのが、具体的な「もの」や「こと」を通して地域の文化を学ぶことです。

例えば、この前のお祭りは「陶祖まつり」と言います。

毎年4月に町全体を上げて行われる焼き物のお祭りですが、実は夏にも「せともの祭り」という大きな焼き物の祭りがあります。

なぜ、焼き物のお祭りが年に2回もあるのか。

恐らく、子どもたちはそのストーリーをまだ知りません。

私は、お祭りの引率をしながら、他の先生方にそのストーリーを話したわけですが、先生方も「へーそうなんだ！」「知らなかった！」と目を丸くしていました。

他にも、例えば SOLAN 小学校がある敷地は実に不思議な形をしています。坂を上って上って、下って学校に到着するのです。

上空から見れば、学校がある場所だけがアイスクリームをスプーンですくったように、土地が凹んでいるのが分かります。

この不思議な形は一体なぜ？と考えると、これも豊かな地域の歴史が浮かんで見えてきます。

ちなみに、私は地域の方と放課後や休日によくお話しする機会がありますが、この SOLAN の校舎ができる前に校舎があった場所や、瀬戸物祭りで毎年雨が降る理由なども直に聞いて教えて貰うことができました。

具体的な「もの」や「こと」を知る際に、それを地域の「ひと」から教えて貰えることができれば、単純に知識や体験を増すばかりでなく、豊かな「関係性」が生まれていきます。

「もの」と「こと」と「ひと」。

この三つを連動させながら学びを進めていくことは、地域の歴史や文化を知る上で極めて大切なことだと思っています。

と、ちょっと話が固く長くなってしまいました。すみません。

いろんな視点で見れば、地域には「不思議」が溢れているので、それを子どもたちと共に調べたり体験したりする活動を豊かに作っていきたいと私も願っているところです。

もちろん、1年生や2年生でも、身近な歴史やなどに豊かにふれることも十分可能です。

去年、1年生で「公園」の調べ学習をした時のこと。

次のように、学習を組み立ててみました。

その時の通信を引用するので、少し長くなりますが、同じく1年生になったつもりで読み進めてもらえると嬉しいです。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝引用ココカラ＝＝＝＝＝＝＝＝＝

最初の時間。

町の中にたくさん存在している公園に存在する「モノ」を、まずは列挙してみました。

ブランコ、シーソー、すべり台、ベンチ、テーブル、手すり、看板、ライト、トイレ、水道、階段…

続いて、「分類」の段階です。

それぞれの物は、何のためにつくられたものですか。

設置されている物の、目的を問いました。

目的ごとに、公園内の設備は仲間分けが可能です。

ブランコやシーソーは、遊ぶため。

ベンチやテーブルは、休むため。

手すりやなだらかな道は、体の不自由な人のため。

それぞれ、相談しながら意見を出し合いました。

続けて、次のように問いました。

「公園」に、なくてはならないものを1つ選ぶとしたらどれですか。

話し合いは、白熱しました。

特に盛り上がったのは、次の2つの論点です。

①公園に、遊具はあるかいないか。

②公園に、トイレはあるかいないか。

議論の交通整理は私がしましたが、とにかく子どもたちの意見と意見がぶつかり合うエキサイティングな展開となりました。

お家の方々も、次号を読む前にもしよければ「必要なもの」を1つ予想してから読み進めてみて下さい。



議論の中で、ある子は「遊具は絶対いる！」と主張しました。
公園は、遊ぶところだから遊具が絶対に必要だということです。
これに反論した子が数名。

「遊具の無い公園もあるよ。」と応戦しました。

続けて、トイレの件です。

トイレは、多くの子が「必要」と考えました。

これに男子数人が真っ向から反対します。

「公園にトイレはいらないと思います。したくなったら家に帰ればいいし、どうしてもダメならそのへんですればいいと思います。」

野性味あふれる意見を聞いて、一同大爆笑となりました。

また、他の子からも「トイレがない公園もあるよ。」との声も上がって、中々決着がつきません。

大まかに言うと「遊ぶ派」の子たちは、遊具を全面的に支持。

「休む派」の子たちは、トイレやベンチを支持しました。

そこで、1つの公園だけではなく、別の公園とも比較したり、他の人の意見も聞いた上で、再度公園に必要なものを検討しようということになりました。

ある子は、お兄ちゃんやお姉ちゃんに尋ねてきました。

ある子は、お父さんやお母さんに尋ねてきました。

自分だけの感覚ではなく、他の人に尋ねるということも生活科（社会科）において大切な学習技能です。

一番良い情報は、「人」が持っていることがほとんどだからです。

ある子は、そうやって調べてきた情報をちゃんと私に伝えてくれました。

「先生、昨日お母さんと公園にいるものを話したんだけどね、『土じゃない？』っていう話になってさ、だから、土が大切なんだと思う。」

お母さんと、そうやって話をした経験は、以前コスモスハーモニーにも書いた通り、きっとその子の中に強く残っていくことでしょう。

<https://blog.seto-solan.ed.jp/?p=4521>

そうした意見を結集し、再度公園に必要なものを検討したわけですが、こ

れまた話し合いは白熱して決着が付きません。

そもそも、「公園にとって一番大切な目的は何か」という点において絶対的な意見の違いがある為、まとまらないのです。

そこで、次の問いをしました。

公園は、何のためにある場所ですか。

子どもたちからまず出てきたのは、先の2つでした。

「遊ぶための場所」と「休むための場所」です。

そしてもう一つ。

「避難するための場所」「お祭りなどをするための場所」という答えも出てきました。

遊ぶ、休む、避難、行事。

公園という場所にあるいくつかの目的が判明しました。

実は、公園には大きく6つの目的があるため、ここにあと2つの項目がラインナップします。

いよいよ学習のまとめの段階です。

ここまでの学習は、私の方からは新たな情報は一切与えていません。

それでも、子どもたちは情報を集め、分類し、さらにはたくましく調査活動を続け、熱の入った話し合いを展開しました。

そしてこの学習の続きとして、子どもたちだけでは集めきれない情報を扱うことにしました。

「一斉授業」の段階です。

あらかじめ調べて考え尽くし、子どもたちの力だけではたどり着けない次元のことを体験させたり、教えたりする時にこの方法を使います。(ちょうど、今日の公園探検に行く直前にこの内容を扱いました)

公園には、色々な目的があります。

何のために公園は作られているのか、順番に見ていきましょう。

テレビ画面に写真を映し出ししながら、1つずつ説明を加えました。

まず、次の4つです。

①あそぶため

②やすむため

③ひなんするため

④ぎょうじをするため

これは、子どもたちがすでに導いた内容です。

写真を一枚一枚見せながら、改めて確認をしていきました。

ちなみに、「ぎょうじ」は色んな種類があります。

お祭りもそうですし、盆踊りもそうですし、バザーなどもそうです。

公園によって、色んな行事があることを教えました。



これはちなみにバザーの写真です。

後に詳しく書きますが、公園制度が始まったのは明治の初めです。

その頃から、公園に市を集めて開いて、地域の市場を活性化させる狙いがありました。

さて、残りは2つです。

ヒントの写真を見せました。

続けて見せたのは、大都会の真ん中にある公園の写真です。

実際に通信でお見せすることはできませんが、コンテンツ上で1枚の写真に「カーテン」のようなものをつけて、情報を分割して見せました。

まず最初は、立ち並ぶビル群を。

そして次に、カーテンを全開にして公園を見せました。

見た瞬間に、閃いた子がいました。

「けしきをきれいにするためです！」

大正解です。

周りの子から、大拍手が起こりました。

例えば、大気汚染の原因になっているNO²という物質があります。

このNO²を、イチョウの成木1本が1日に760mg吸収するとのデータがあります。(車が3km走って排出するNO²量に相当します。)

植物たちが、空気の汚れをきれいに行っているを知り、子どもたちは目を丸くしていました。

「うそー！」と驚きの声を上げる子もいたほどです。

さて、これで制度としての公園の目的が出揃いました。

遊ぶ、休む、避難、行事、景観、空気。

ここで、改めて問いました。

この6つのうち、公園において一番大切な目的はどれだと思いますか？

もちろん、どれも非常に大切な目的であり、順位をつけることは難しいかもしれません。

しかし、公園制度が始まった当時は、明確な目的がありました。

その話をして、授業を終えることにしました。

『公園の誕生』(小野良平著)という本に、制度が始まった当初の目的が次のように書いてあります。

「人口稠密の都府に園林及び空地を要するは、其因由一にし足らずと雖も、第一に衛生上より論ずれば、街区相連なり軒盈相望むの間之に間在し之に連帯する開豁清潔の場所あるに非ざれば、住民日常の生活、産業より生ずる大気の汚敗を更新するの路なく、有害の悪気市区に沈滞して病夭の媒を為し其の浄除揮散を求むるも得可らず。是家に庭なく、室に窓なきに同じく、

亦身体に肺臓を欠くに異ならざるなり」

ここに示されているように、公園設置の第一の目的は「衛生」であった。

もちろん、実際にこの文章を読んだわけではありません。

本を紹介しつつ、それを見せながら易しい言葉で説明を加えました。

19世紀はコレラに代表される伝染病がたびたび大流行し、当時の大きな社会不安を作っていた為、「衛生」の役割は極めて重要でした。

その中で、都市の衛生状態を改善するための装置としての役割が、公園設置の一番大きな理由だったのです。

今のコロナ禍とも共通するような世相が、当時起きていたのです。

公園の木々たちは、こうやって長い年月の間、変わることなく新鮮な空気を私たちの街に供給してくれています。

ここまで説明すると、多くの子がつぶやきました。

「公園の木って大切なんだなあ。」と。

その通りです、と褒めました。

もしも、最初の問いに戻って「公園にとってなくてはならないもの」を答えるなら、それは「緑」だろうと考えています。

そうした話を聞いてか、今日の公園探検ではまじまじと木を観察したり、触ったりする姿が見られました。

やさしくなでる子がいれば、ギュッと抱きしめている子も。

なんと、「ありがとうね。」と語りかけている子もいました。

素敵な公園学習の締めくくりとなりました。

=====引用ココマデ=====

地域にある数々の不思議な「もの」や「こと」や「ひと」。

私もまだまだ知らないことだらけなので、ぜひまたいろいろと教えていただけると嬉しいです。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

